

令和 6 年度病害虫発生予察予報第 11 号（令和 7 年 2 月）

令和 7 年 2 月 5 日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作 物 名	病 害 虫 名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 退緑黄化病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	並(中央、中西)、少(西) <u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中央) <u>多(中西、西)</u> 、やや少(中央) <u>多(県下全域)</u> <u>多(中西、西)</u> 、やや少(中央) <u>多(県下全域)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(東)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(西) <u>多(西)</u> 、平年並(東)、やや少(中央) <u>やや多(中央)</u> 、少(東、西) <u>やや多(中央)</u> 、少(東、西) <u>多(中央、西)</u> 、平年並(東)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(東)</u> 、やや少(中央、中西) 平年並(中央、中西)、少(東) <u>多(東、中央)</u> 、少(中西) <u>多(中央)</u> 、平年並(中西)、少(東) <u>多(中西)</u> 、平年並(東、中央)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	少(中央) 少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県 東 部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県 西 部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報(高松地方気象台1月30日発表)

2月1日から2月28日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

向こう1か月の気温は、期間の前半に寒気の影響を受けやすいため、低いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり低くなる見込みです。また、期間のはじめは気温の変動が大きいでしょう。平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率60%です。2週目は、低い確率60%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1か月	四国地方	気温	50	30	20
		降水量	40	30	30
		日照時間	30	30	40

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	60	30	10
2週目		60	30	10
3～4週目		30	40	30

＜予報の対象期間＞

1か月：2月1日(土)～2月28日(金)

1週目：2月1日(土)～2月7日(金)

2週目：2月8日(土)～2月14日(金)

3～4週目：2月15日(土)～2月28日(金)

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1)べと病

予 想 発生量：並(中央部、中西部)、少(西部)

根 拠

(1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部と中西部で平年並、西部で平年より少なかった。発病程度は県下全域で平年並であった。

(2) 2月の気温は低くなると予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底するとともに、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。

2)うどんこ病

予 想 発生量：やや多(中西部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部、西部で平年並、中央部で少なかった。発病程度は中央部で平年より高く、中西部、西部で平年並であった。
- (2) 2月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発生が多くなる。多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。薬剤によっては、散布後も病斑の見た目が変化せず防除効果がわかりづらい場合があるため、防除後に展開した葉の発病の有無で防除効果を判断する。

3)黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で新たな発生が見られ、発生面積は県中西部、西部で平年よりもやや多く、中央部で少なかった。発病程度は西部で平年よりも高く、中西部でやや高く、中央部で低かった。
- (2) 1月の調査では、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生は県下全域で確認されている。例年、2月以降ミナミキイロアザミウマの密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

4)退緑黄化病

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれも平年より多かった。発病程度は中央部と西部で平年よりも高く、中西部で平年並であった。
- (2) 1月の調査では、媒介虫であるタバココナジラミの発生が県下全域で確認されていることから、2月以降も既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。

5)ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中西部、西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、中西部でやや多く、中央部で少なかった。発生程度は、西部で平年より高く、中西部で平年並、中央部でやや低かった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年より多く、中西部でやや多かった。発生程度は、中央部と西部で平年より高く、中西部で平年並であった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 黄色粘着トラップの設置等により、早期発見・早期防除に努める。
- (2) 本虫は上位展開葉の葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中央部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は県東部で平年よりも多く、中央部で平年並であった。発病程度は両地域とも平年より高かった。
- (2) 2月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、発病は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多(西部)、平年並(東部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年より多く、東部で平年並、中央部でやや少なかった。発生程度は西部で平年よりやや高く、東部、中央部で低かった。
- (2) 2月の気温は低くなると予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

3) すすかび病

予 想 発生量：やや多(中央部)、少(東部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりもやや多く、東部、西部で少なかった。発生程度はいずれの地域も平年より低かった。
- (2) 2月の気温は低くなると予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中央部)、少(東部、西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりもやや多く、東部で少なかった。発生程度は両地域とも平年より低かった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部、西部)、平年並(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。発生程度は中央部で平年よりも高く、その他の地域はやや低かった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られるが、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉の葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多(東部)、やや少(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部で平年並、中央部、中西部で少なかった。発病程度は東部で平年よりも高く、中央部、中西部で低かった。
- (2) 2月は平年と同様に晴れの日が多いと予想されているため、発病は増加すると考

えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：平年並(中央部、中西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県中央部、中西部で発生が見られ、発生面積は両地域とも平年並であった。発生程度は、中西部で平年より高く、中央部で平年並であった。
- (2) 2月の気温は低くなると予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多(東部、中央部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は両地域とも平年より多かった。発病程度は、中央部で平年より高く、東部で平年並であった。
- (2) 2月の気温は低くなると予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多(中央部)、平年並(中西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年より多く、中西部で平年並、東部で少なかった。発生程度は中央部で平年より高く、中西部で平年並、東部で低かった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られるが、ほとんどのほ場でカブリダニ類等の天敵類が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(東部、中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年より多く、東部、中央部で平年並であった。発生程度は中西部で平年より高く、東部でやや低く、中央部で低かった。

- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られるが、ほとんどのほ場でカブリダニ類等の天敵類が定着しているため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉の葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。
- (2) 天敵類の密度が低いほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より少なく、発病程度は低かった。
- (2) 2月の気温は低くなると予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は22℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

2) すずかび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より少なく、発病程度は平年より低かった。
- (2) 2月の気温は低くなると予想されているため、現在の状況が続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病は25℃前後の多湿条件で発生が増加するため、換気などによりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 多発すると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 本病は厳寒期に発症しづらくなることから、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却などにより処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 1月の調査では、発生面積は平年より多く、発病程度は高かった。
- (2) 例年、2月以降に本虫の密度が上昇する傾向が見られることから、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は上位展開葉の葉裏に産卵するため、薬剤防除は薬剤が葉裏にかかるように実施する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)